

「ペトロ・岩になった人」

2014年05月27日

ペトロは、ユダヤ名でシモンと言いましたが、主イエスからギリシャ名でペトロ（岩）というあだ名が付けられました。彼はガリラヤ湖の漁師でしたが、主イエスから「わたしについてきなさい。人間をとる漁師にしよう」と呼びかけられた時、すぐに網を捨てて、従いました。主イエスの呼びかけには、即座に応えざるを得ない何かがあったのでしょう。ガリラヤ人は勇敢で、決断力があり、血の気の多い気質でした。ペトロは典型的なガリラヤ人氣質を受け継いでいます。主イエスに従いながら、素晴らしい言葉を聞き、力ある業を見、ますます主イエスに対する信頼と愛を深めていきます。選ばれた12弟子の中で、自他共に認める第一の弟子になっていきます。

ペトロは、主イエスから「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と問われた時、真っ先に「あなたは、メシア（キリスト）です」と答えています。彼の全身全霊を捧げた主イエスに対する信従が、この告白に表れています。ペトロの主イエスへの信頼と愛は、ヨハネ福音書が記す最後の晩餐のシーンに的確に描かれています。主イエス自らが弟子の足を洗い始めました。人の足を洗うのは奴隷がする仕事です。あっけに取られた弟子たちは言葉を失いました。ペトロの番になった時、彼は畏れて「わたしの足など、決して洗わないでください」と言います。すると主イエスは「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と言われます。関わりが切られることを恐れて「主よ、足だけでなく、手も頭も」と答えています。ユーモラスな会話ですが、ペトロの主イエスへの思いが伝わってきます。

最後の晩餐の後、オリーブ山を歩きながら、主イエスは弟子たちの離散を予告します。慌てたペトロは「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません」と怒りさえ込めて言い放ちます。その数時間後、主イエスはエルサレム神殿の衛兵に捕縛されますが、弟子たちは蜘蛛の子を散らすように逃げ去りました。ペトロは逃げ出した自分自身に落胆したでしょうが、主イエスが大祭司の中庭で尋問される場に戻ってきます。そこで、火に照らされたペトロの顔を見た女中から「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた」と言われます。同じことを三回指摘され、三回とも、主イエスとの関わりを否定します。離散を予告した主イエスの言葉通りになったのです。信頼し愛し従ってきた、そして、勇敢で、律儀なペトロは敗れ去ったのです。マタイ福音書は「外に出て、激しく泣いた」と記しています。

福音書は心と体を燃やして主イエスに従った弟子たちが無残に挫折していった物語を描いています。ところが、使徒言行録が伝えるペトロは全く違う、別人になっています。イスラエルで最も権威ある最高法院で二回、尋問を受けています。ペトロは「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください」、また「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません」と主イエスの救いの出来事を宣教することが神に従うことであると堂々と宣言しています。この生まれ変わりは復活した主イエスに出会ったこと、そこには裏切ったことを赦された喜びがあったからです。自分の力ではなく、復活した主イエスの命をいただいている。無学な漁師であったペトロは復活した主イエスに立たせられ、動かぬ「岩」になったのです。